

SNS相談「大阪府こころのほっとライン（新型コロナ専用）」

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響による不安やストレスなど、こころの健康に関する相談を実施

実施期間：令和2年5月～令和5年5月7日（※令和3年3月22日～6月31日までは休止）

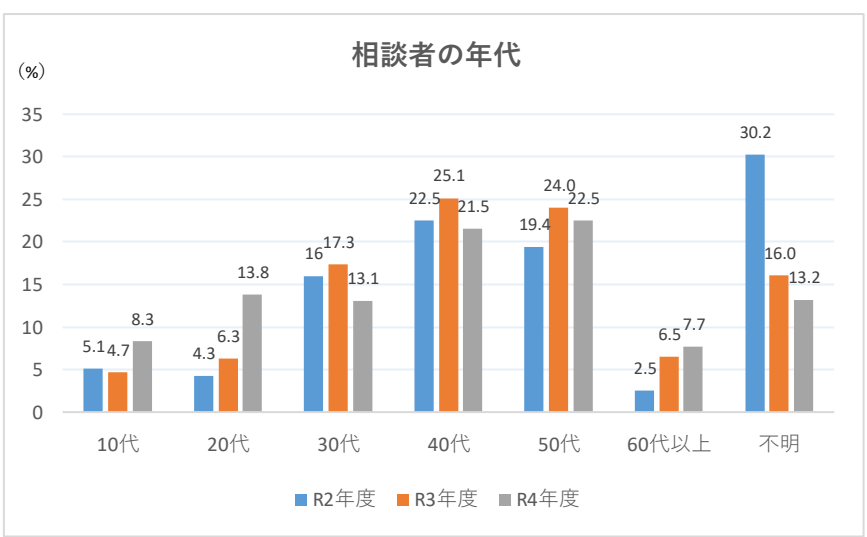
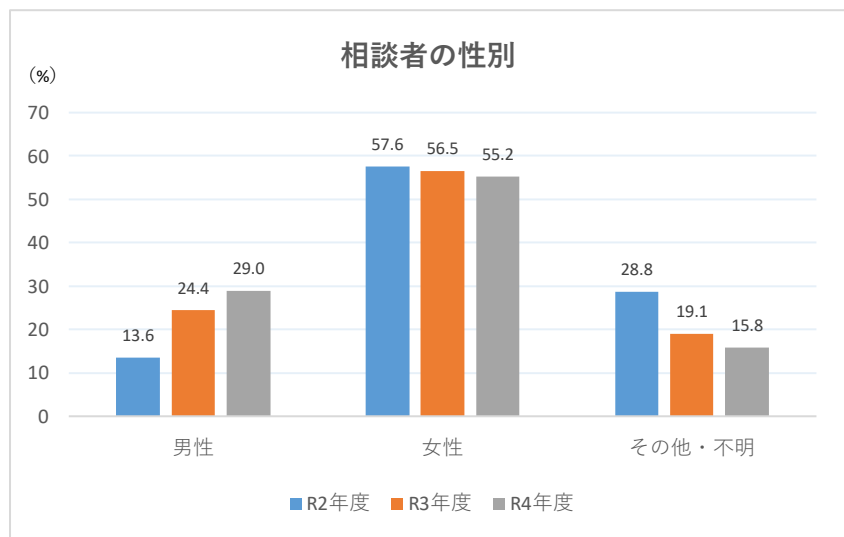
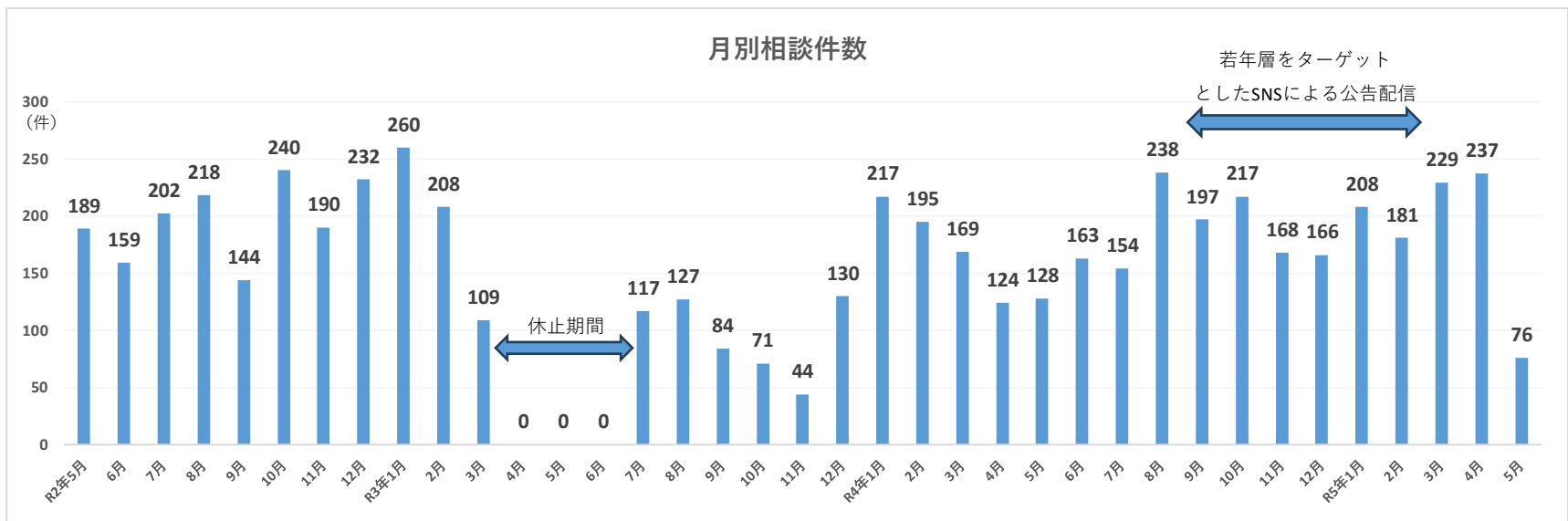
相談日時：水・土・日、午後5時半～10時半

◀相談状況▶

- ・相談件数は、1年目の令和2年度は2,000件を超え、令和3年度は休止期間もあったが相談件数は減少、令和4年度は若年層をターゲットにSNSによる相談窓口の広告配信を実施した8月以降相談件数は増加した。
- ・相談者の性別は、いずれの年度も女性が5割を超えている。
- ・年代は、40代と50代が多くなっている。若年層に対しSNSによる広告配信を実施した令和4年度は10代と20代が増えている。

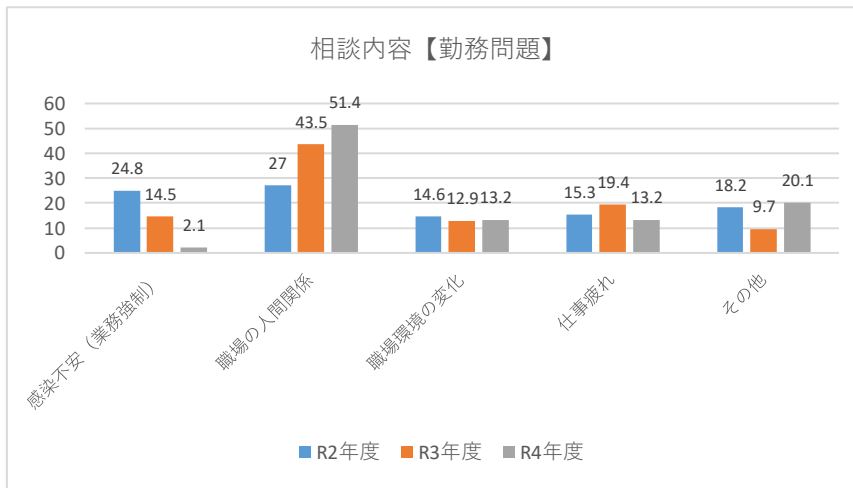
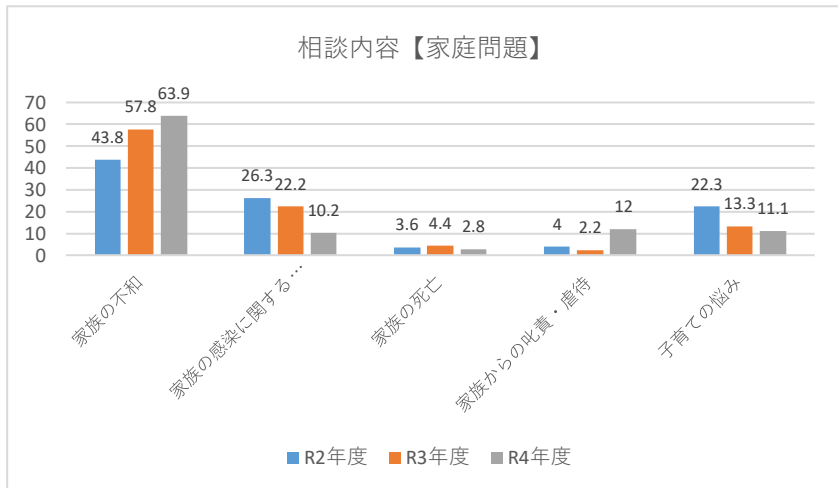
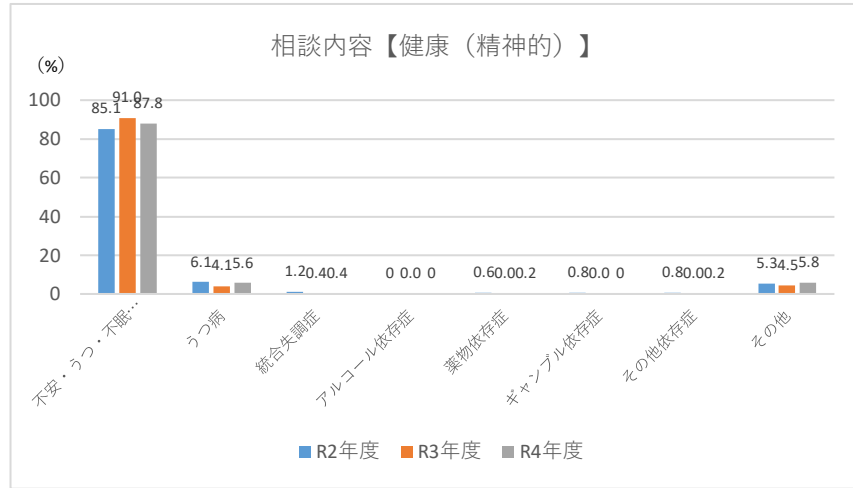
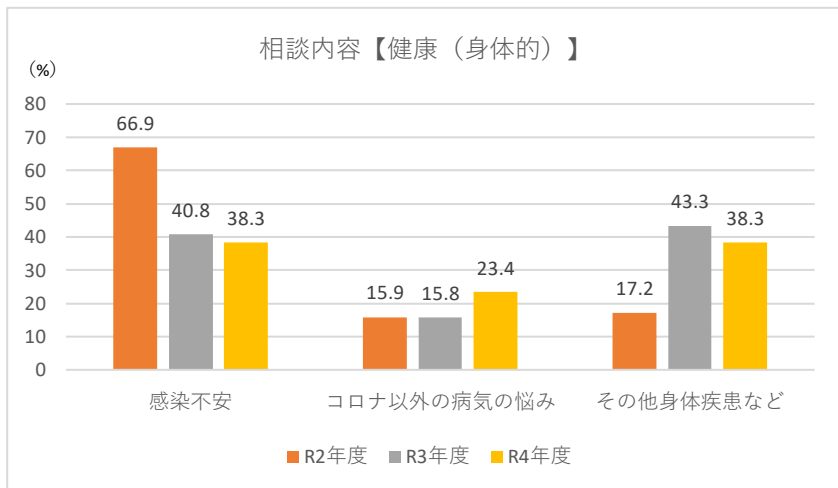
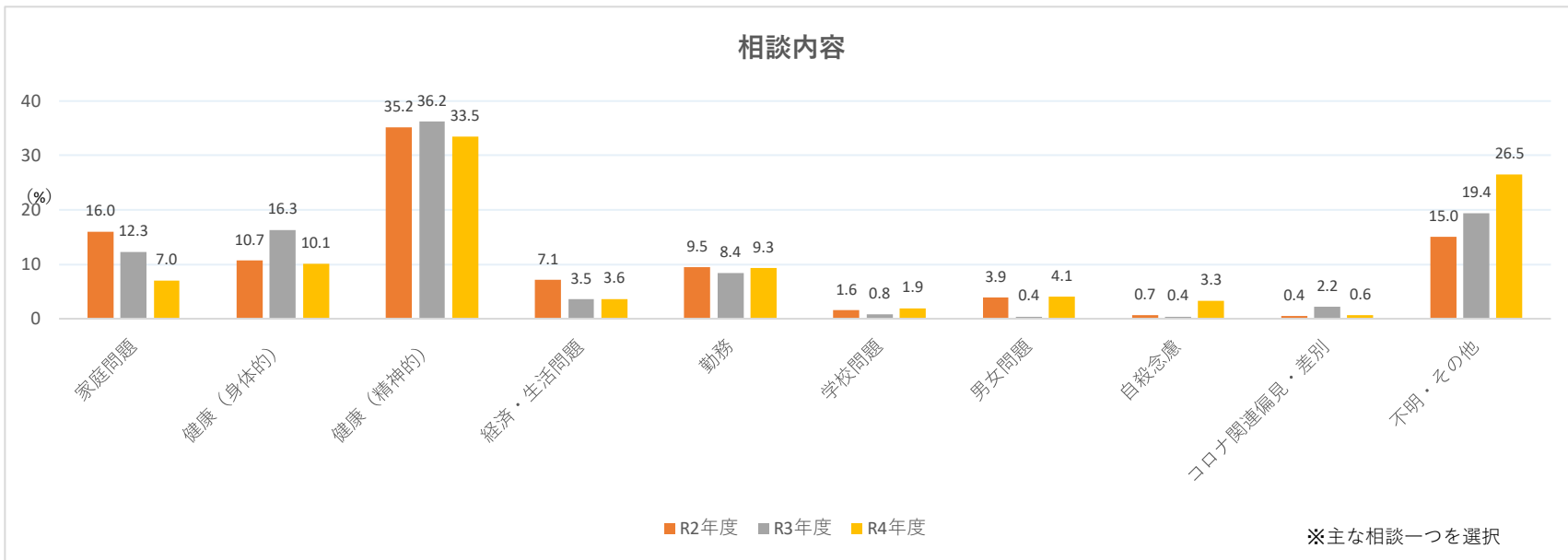
相談件数

	実相談数	延べ相談数
令和2年度	951	2,151
令和3年度	493	1,154
令和4年度	709	2,173
令和5年度	111	313
合計	2264	5791



「相談内容」

- ・相談内容は、健康問題（精神的）が最も多く、次に家庭問題と健康問題（身体的）、勤務問題が多い。
- ・健康問題（身体的）では、令和2年度は感染不安の割合が6割以上となっていたが令和3年度以降減少し、その他の身体疾患やコロナ以外の病気の悩みが増加した。
- ・健康問題（精神的）では、不安・うつ・不眠・イライラがいずれの年度も多く大多数を占めている。
- ・家庭問題は、家族の不和が多く、令和3年度以降増加、家族の感染に関する不安は、令和2年度が最も多く、令和3年度以降減少した。
- ・勤務問題は、職場の人間関係が多く、令和3年度以降増加、職場内の感染不安は徐々に減少した。



「まとめ」

- ・令和2年度に比べ、令和3年度は相談件数が減少し、相談内容で健康問題（身体的）では「感染不安」の割合が減少した。現実的な感染リスクは収まらない状態でも、感染不安については一定の期間で軽減した可能性が考えられる。
- ・相談内容には、コロナに関連した不安が多いものの、相談対応する中で同時に家族関係や人間関係の話題が上がることも多く、相談者が潜在的に抱える心理的課題について取組みきっかけになったことも考えられる。
- ・令和4年度は、若者をターゲットにSNSによる広告配信を実施したことにより若年層の相談者が増加した。悩みを抱える若者に相談窓口を効果的に周知することができたと考えられる。